

# 年頭にあたってのごあいさつ



日本アイ・ビー・エム健康保険組合  
理事長 山口 俊一

被保険者ならびにご家族のみなさま、そして事業主のみなさまには日頃より日本アイ・ビー・エム健康保険組合の事業運営につきまして多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。さて私、2月15日に行われました臨時理事会において理事長の任を仰せつかりました。理事長を務めさせていただくのはこれで2度目なのですが、健康保険制度を取り巻く環境が以前にも増して厳しくなっている状況下においてこの大役を再度仰せつかり、責任の重さを感じております。

さて、みなさまご承知のとおり、高齢化や医療の高度化などの影響により、医療費は増加を続け、健保組合は非常に厳しい状況にあります。これまで多くの健保組合が保険料率の引き上げ等で対応してきましたが、それも限界に達しています。健康保険組合連合会の平成30年度健保組合予算早期

集計によると経常収支は1381億円の赤字となっており、平均保険料率は11年連続のアップとなつて過去最高の9・215%に達しています。

また、昨年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2018（骨太方針）」では、社会保障費の伸びと国民負担の増加の抑制を基本に据えた方向性が示されました。しかし、肝心の高齢者医療費の負担構造改革については、後期高齢者の窓口負担の見直しが先送りされかねない内容になるなど、具体性・即効性に乏しいと言わざるをえません。今回の骨太方針は、2019年度から2021年度までを「基盤強化期間」とし、2020年度に社会保障の重点施策が取りまとめられる予定です。今後、どのような検討や取り組みが進められるのか、私たちがしっかりと注視していく必要があります。

こうした厳しい財政状況のなかにあつて、健保組合の重要な使命は、保険者機能を最大限に発揮し、みなさまの健康づくりを着実に推進していくことにあります。引き続き、事業主との連携を深めてデータヘルス計画に取り組み、特定健診・特定保健指導等の疾病予防を中心とした保健事業を積極的に展開し、みなさまの健康保持・増進と健康寿命の延伸を図ってまいります。みなさまにおかれましても、日々の健康づくりとともに、医療機関および接骨院・整骨院などにかかる際の適正受診、ジェネリック医薬品の積極的な使用などを通じて、医療費の適正化にご協力いただきたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年がみなさまにとって幸多き一年となりますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。